

ひきだし 押入 と 抽斗

西村 秀雄

娘の幼稚園を具体的に決めなければならなくなった時に、柏崎市内の他の幼稚園を見学させていただいたことがあります。揃いの制服と教え込まれた所作は、それはそれで立派なものだったのですが、私にはどうもなじめなさが残ってしまいました。他の幼稚園ではなく県立常盤高等学校附属幼稚園を希望させていただいた理由は、わが家の場合、案外こんなものでした。

娘は常盤幼稚園を「がっこう」と呼んで、毎日楽しそうに通園しました。登園はいつも一番乗り。園の玄関で「お父さんはもういいのーっ」と私は追い返されます。見ていると、玄関の扉に隠れた娘は「せえーんせえーいっ」と叫んで先生を玄関におびき出して - 先生方、ゴメンなさい - かくれんぼをしていました。「がっこう」が彼女にとってどんなにワクワクする存在であったのかは、その時の表情に良く現れていました。常盤幼稚園にして良かったな、と思ったひとときです。

仕事を持った父親が、幼稚園の様子を直接見ることのできる機会は送迎時や参観日などに限られます。遠足や運動会、螢狩りなど盛りだくさんの行事は、申し訳ないと思いながらもすっかり妻まかせとなってしまいました。

さて、常盤幼稚園にお世話になった親御さんは、異口同音に「常盤ではのびのびと育ててくれる」とおっしゃいます。私もその通りだと思います。他の幼稚園では早くから知識の伝授に汲々とする事例が多いと聞いていますが、常盤幼稚園では、私の知っている限り、そのような詰め込み教育とは無縁だったように思われます。

教育を英語でeducationと言いますが、この言葉はラテン語のeducareという語（動詞）に由来します。実はこの言葉は本来、「引き出す」という意味です。意外に思われるかもしれませんが、教育の基本は「教え込む」ものではないというわけです。これはとても大切なことです。

押入にむやみに物を詰め込んでも、どこに何を収納したかわからなくなってしまふことは良くあることですし、場合によっては詰め込みすぎで戸が壊れてしまふかもしれません。それよりも、本当に大切なことを机の抽斗から「引き出す」ことの方が、長い目で見た場合にはずっと大切なのではないのでしょうか。

詰め込みでも放任でもなく、のびのびと育てる。私には、常盤幼稚園でこの「引き出す」教育がちょうど良い具合に実現されていたように思われてならないのです。

娘は常盤幼稚園の最後の児童の一人として有意義な三年間を過ごさせていただきました。また妻は最後のPTA会長という大役を仰せつかることとなりました。そして私は、平成十一年春まで園長を務められた白沢賢二校長先生と以前に何度か一緒に仕事をさせていただきご縁で、園長先生と親しくお付き合いさせていただきました。常盤幼稚園に一家でお世話になったわけです。

その常盤幼稚園が役目を終え、閉園されることはとても残念ですが、社会の変化や制度上の問題を考えれば止むを得ないでしょう。けれども常盤幼稚園の教育が存在しなくなるわけではありません。かつての園児や保護者の中に、それこそ血となり肉となってこれからも生き続けるのですから。